

事例2 思考力、表現力の育成を目指した論述指導と評価の工夫

1 ねらい

この事例では、「現代社会」の授業の中で、生徒に様々な課題について考えさせ、自分の意見や考えを書かせることを通して、思考力や表現力を高めることを目指した。

授業に際して、なるべく多くの資料を提示し、ブレインストーミングやイメージマップの作成等の手法を取り入れ、生徒から多様な見方、考え方を引き出すことを心がけた。また、ワークシートを活用して、考えや意見を書かせる時間をなるべく多く確保するようにした。

そして、授業の内容を踏まえて、定期テストにおける論述式の問題で評価することを試みた。採点基準をなるべく明確にして、教師が採点しやすく、生徒も納得できる評価の在り方を検討した。なお、授業実践は、第1学年を対象に行った。

2 授業実践

実践1 生命倫理と臓器移植について考える

(1) 単元名 科学技術の発達と生命の問題について考える

(「現代に生きる私たちの課題」から選択)

(2) 単元の目標

科学技術の発達と生命の問題について、自己との関わりに着目して課題を見だし、課題を追究する学習を通して、科学技術の発達と生命の問題に対する関心を深め、自己の在り方生き方の問題として考えさせる。

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
科学技術の発達と生命の問題について、自己との関わりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。	科学技術の発達と生命の在り方について、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	科学技術の発達と生命の問題について、設定した課題を追究し考察した過程や結果を、口頭や文章などで適切に表現している。	科学技術の成果が社会のすみずみまで浸透するとともに、生命の在り方にまで影響が及んできたことについて理解し、その知識を身に付けている。

(4) 指導計画

時	学 習 内 容
1	科学技術の発達と生命の問題
2	バイオエシックス～生命の質～
3	環境倫理～生命への畏敬～
4	臓器移植の課題

(5)実践の概要

「現代に生きる私たちの課題」から、「科学技術の発達と生命の問題」を取り上げ、「生命倫理と臓器移植について考える」というテーマを設定し、4時間構成で授業を実施した。その際、「民主社会の倫理」の単元で扱われているバイオテクノロジーや生命倫理、医療倫理といった内容も、テーマとの関連が強いことから、ここで併せて学習することとした。

生徒にとってあまりなじみのない難しいテーマであるため、1時間目の授業で近年話題となった「万能細胞」の開発を取り上げたり、2時間目で映画『パッチ・アダムス』を視聴させたりして、生徒がこの問題に興味を抱き、身近に感じられるように努めた。

2時間目に、導入で「臓器提供意思表示カード」を提示し、医療技術の発達が「脳死」という新しい死のありようを生み出し、脳死における臓器移植の問題を生じさせたことを確認した。「人の死をめぐる問題」と「医療の倫理」について基本的事項の理解を図った後、映画『パッチ・アダムス』の一部を視聴させ、望ましい医療の在り方について記述させ、何人かに発表させた。

《2時間目》

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
導入	10分	・『臓器移植カード』を記入する。	・実物のカードも提示し、生徒の興味・関心を高める。 ・詳しい説明はせず、現時点で生徒が持っている知識で記入させる。	
展開	35分	・「死をめぐる問題」について、教科書を読んでまとめる。 ・医療の進歩が大きく影響していることを理解する。		・「脳死」や「尊厳死」などの「死をめぐる問題」を理解している。 【知識・理解】 〔ワークシート、テスト〕
まとめ	5分	・「医療の倫理」について教科書を読んでまとめる。 ・映画『パッチ・アダムス』の一部を視聴し、私たちの意思が尊重される医療のあり方を考える。	・映画『パッチ・アダムス』のいくつかのシーンを視聴させ、医者は患者に対してどのように医療を施すべきなのかを考えさせる。	・インフォームドコンセントや自己決定権についての理解を踏まえ、よりよい医療の在り方について考察している。 【思考・判断】 〔ワークシート、発表〕
まとめ	5分	・授業を振り返り、医療の倫理について考えたことを発表する。	・臓器移植の問題については、4時間目でまた取り上げることを予告する。	

現代社会ワークシート [テーマ2 / バイオエシックス～生命の質について～]

()年()組()番/氏名_____

の「臓器提供意思表示カード」に、自分自身の意思を正しく記入してみよう！



日本で臓器移植を待つ人は1万3千人。
自分が脳死となって最期を迎えたとき、誰かの命を救うことができます。(抜粋)

「該当する1.2.3.の番号を○で囲んだ上で提供したい臓器を○で囲んで下さい」

- 私は、脳死の判定に従い、脳死後、移植の為に○で囲んだ臓器を提供します。(×をつけた臓器は提供しません)
心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球・その他()
- 私は、心臓が停止した死後、移植の為に○で囲んだ臓器を提供します。(×をつけた臓器は提供しません)
腎臓・膵臓・眼球・その他()
- 私は、臓器を提供しません。

署名年月日: _____年 _____月 _____日

本人署名(自筆): _____

家族署名(自筆): _____

(可能であれば、この意思表示カードをもっていることを知っている家族が、そのことの確認の為に署名して下さい。)

1 <先端医療技術の進歩>によって生じる「死をめぐる問題」に関して、～をまとめなさい。

【人の死】...【 】の停止、【 】の停止、【_____の_____】という3つの徴候で判断。

【脳死】...【 】全体の機能が停止して、回復が不可能な状態。先端医療技術が発達し、脳の機能が停止しても【 】の使用により呼吸や【 】を補助してしばらくのあいだは【 】を動かし続けることができる。

【 】... 大脳全部あるいは一部の機能が停止している状態。【 】できることが多く、回復することがある。

【 】... 苦痛を強いるだけの【_____を_____】、生命を自然な状態にまかせること。【_____の_____】により人間としての尊厳ある死を選ぶこと。

2 <医療の倫理>について、私たちの意思が尊重される医療とは何か、考えてみよう！

【 _____ 】... 医者の患者に対する「 _____ 」という態度(= _____)

【 _____ 】(= _____)
... 医者が患者に対し、診断や治療に関する【 _____ 】を患者に十分に【 _____ 】して患者が【 _____ 】すること。

【 _____ 権】... どのような治療法を選ぶのかを【 _____ 】が決定する権利

映画『パッチ・アダムス』のシーンを参考に<医療の倫理>についての感想をのべよ。

4時間目では、生徒に臓器提供に関するアンケートに答えさせてから世論調査等のデータを示し、自分の意見と対比させながら、臓器移植の現状を理解させた。そして、臓器移植法の規定を確認した上で、「自分だったら脳死での臓器提供をするか、しないか」を考えさせた。そして、その根拠について、資料等も活用して記述させ、最後に何人か発表させた。発表を聞く際には、よく聞いて、自分と異なる意見をメモするように指示した。生徒はそれぞれ自分の思いを表現することができたのではないと思う。また、クラスメートの意見を聞くことで、自分とは異なる多様な考え方に気付くことができた。

《4時間目》

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
導入	10分	・「臓器移植」についてのアンケートに答え、自らの回答と資料1・2とを比較して現状を把握する。	・臓器移植への理解が進んでいる反面、制度が浸透していないことを理解させる。	
展開	35分	・教科書を参考に、「臓器移植法」における臓器提供が可能な条件をまとめる。 ・教科書や資料を参考に、自分だったら脳死判定後の臓器提供をするかどうか、論述する。	・根拠となる資料やデータをできるだけ明示させる。	・臓器移植の現状と課題について理解している。 【知識・理解】 〔ワークシート、発問〕 ・既習事項や資料をもとに、根拠を挙げて自分の考えを分かりやすく論述している。 【資料活用の技能・表現】 〔ワークシート、テスト〕
まとめ	5分	・まとめた意見を発表する。	・自分と異なる意見や、異なる立場の見解について、メモをとらせる。	

授業は、テーマごとに作成したワークシートを使用して進めた。ワークシートには、必ず画像や表などを貼り付けて、文字情報が多くなりすぎないように配慮した。また、生徒自身の言葉でまとめさせたり、意見や感想を書かせたりするなど、文章で記述する場面を多くして、日頃から文章で表現することに慣れさせるよう留意している。そのため、生徒は、「書くこと」に対して抵抗感をもたずに書き始めることができるようになっている。

なお、本時のワークシートは、生徒個人の信条やプライバシーに関わる内容が含まれているため、場合によっては無記名とするなどの配慮が必要である。

現代社会ワークシート [テーマ4 / 臓器移植の課題]

()年()組()番 / 氏名 _____

「臓器移植」についてのアンケートに答え、**資料1・2**の結果・分析と比較してみよう！

Q1：あなたは脳死判定後に臓器を提供したいと思っていますか？

- ① 提供したい ② どちらかといえば提供したい ③ わからない
④ どちらかといえば提供したくない ⑤ 提供したくない

Q2：あなたは臓器提供に備えて「意思表示カード」などに記入し所持していますか？

- ① 記入し所持している ② 未記入だが所持している ③ 所持していない

1)『臓器移植法』について、教科書を読んでまとめ、臓器提供の条件を確認してみよう！

< 「臓器移植法」での臓器提供の条件 (可否) >

… 本人が脳死判定にしたがい臓器を提供する _____ があることを _____ し、 _____ が臓器の摘出を拒まない場合にかぎり、脳死を「人の死」とし、脳死後の臓器提供を可能としている。

< 本人の意思表示がない場合 >

家族が _____	提供 _____
家族がいない	
家族が <u>承諾</u>	家族が承諾した臓器（腎臓・角膜について）を _____ に提供できる。

2) **資料4**や教科書などを参考に、あなたは脳死判定後に臓器を提供するか、それともしないか、理由や根拠をあげて論述しなさい。

私は、脳死判定後に臓器を（ 提供する / 提供しない ）。
その理由は

あなたと異なる意見の人の見解や立場もメモしてみよう！

現代社会 資料 [テーマ 4 / 臓器移植の課題]

() 年 () 組 () 番 / 氏名 _____

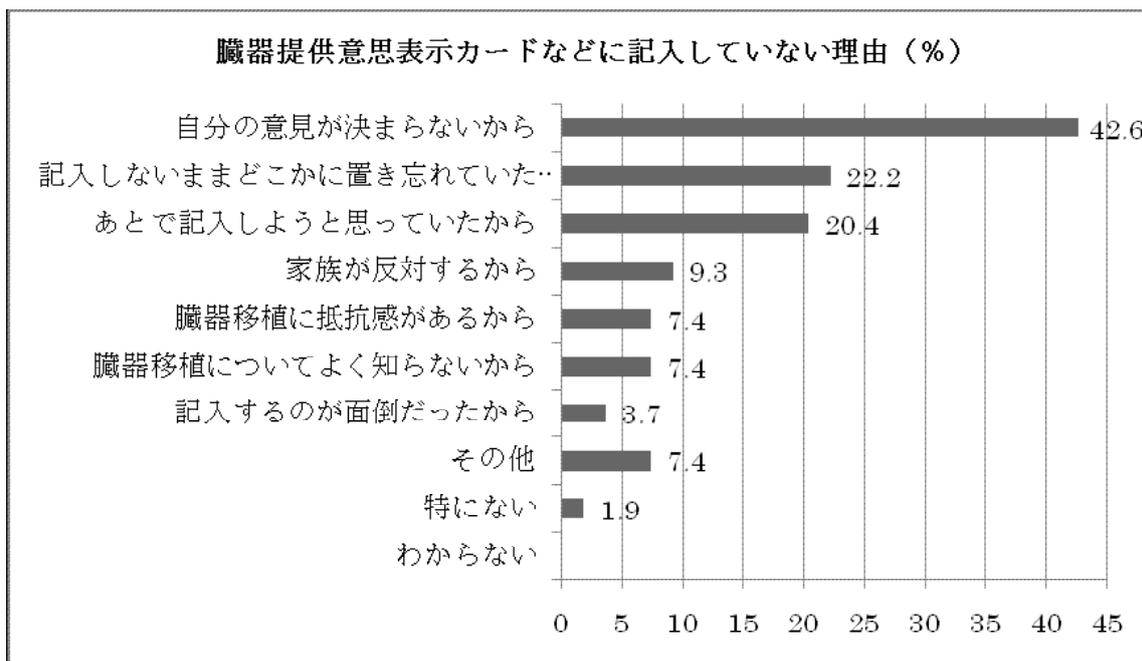
資料 1

タイトル「『臓器提供したい』4割超す 意思表示カードなど所持8%」

(内閣府「臓器移植に関する世論調査」の発表を受けた記事)

(2007年1月21日 読売新聞 YOMIURI ONLINEより引用)

資料 2



(厚生労働省、平成18年度の意識調査より)

資料 3

タイトル「臓器移植法10年、提供わずか61例 子供は海外へ」

(臓器移植法施行10年を受けて、臓器移植の現状を伝えた記事)

(2007年10月16日MSN産経ニュースより引用)

資料 4 脳死判定後の臓器提供 (心臓や肝臓など) に対する本人意思 (総数1,727人)

・提供したい	22.8%
・どちらかといえば提供したい	18.8%
・どちらともいえない	27.0%
・わからない	3.9%
・どちらかといえば提供したくない	8.1%
・提供したくない	19.4%

(厚生労働省、平成18年度の意識調査より)

(7) 論述式の問題による評価

定期テストにおいて、授業に関連したテーマで論述式の問題を出題した。本テーマに関する出題は以下のとおりである。

「臓器移植の課題」について、現行の『臓器移植法』では、書面などで本人の意思表示がない場合、家族が承諾した臓器（腎臓と角膜については）を心停止後に提供することができる。家族が「脳死」状態になって本人の意思表示がない場合、家族の臓器提供（腎臓と角膜）を心停止後に承諾するか、それとも拒否するか。どのような判断が望ましいと考えるか、自分なりの理由をあげて論述せよ。なお、資料を参考にしてもよい。

【解答欄】

私は、家族の臓器提供を（ 承諾 / 拒否 ）することが望ましいと考える。
その理由は、

資料 1

<臓器移植について>

臓器移植は臓器の機能が低下し、移植でしか治らない人と死後に臓器を提供してもいいという人とを結ぶ医療です。

日本で臓器の提供を待っている人はおよそ1万2千人。臓器の提供が少なく、数多くの人が移植を希望しながら亡くなっています。

日本で事故や病気でなくなる人は毎年およそ90万人。その1%弱、約7千人が脳死になって亡くなると言われています。(以下略) ((社)日本臓器移植ネットワークリーフレットより)

資料 2

<臓器移植に関するQ&A>

Q：提供後のからだはどうなりますか？

A：入院している病院で、数時間（3～5時間）の摘出手術をした後にご家族の元に戻ります。

臓器を摘出するための傷ができますが、きれいに縫い合わせて、清潔なガーゼをあて、外から見ても傷がわからないようにします。また眼球提供の際は、義眼を入れます。

((社)日本臓器移植ネットワークリーフレットより)

資料 3 家族が脳死判定を受けた場合、臓器提供の意思を尊重し提供を認めるかどうか

・尊重し、提供を認める	45.8%
・たぶん尊重し、提供を認める	25.0%
・その時になってみないとわからない	18.9%
・たぶん尊重せず、提供を認めない	4.0%
・尊重せず、提供を認めない	6.4%

(総数1,727人)

(厚生労働省、

平成18年度の意識調査より)

授業では「自分自身の臓器提供」について考えさせたが、テストでは、「家族が意思表示をしていない場合の臓器提供」を取り上げた。授業とは異なる設定とし、初めて提示された問題に対して、生徒の思考・判断力、表現力を評価したいと考えた。ただし、個々の信条や経験等に配慮し、自分だったらどうするかを直接問うのではなく、「どのような判断が望ましいと考えるか」という問いかけとした。

論述問題を定期テストに出題する場合、生徒にきちんと取り組ませるためには、事前に何らかの指導が必要である。事前に指導をしないと、生徒は書く気にならず白紙で解答したり、筋道立てて考えることをせずに論旨のあいまいな文章を書いたりする傾向がある。

そこで、テスト前に以下のような「学習の記録」を用いて、授業で扱った内容やテーマについて復習する時間を確保した。授業の目標やポイントについて教師が説明して生徒に書かせた後、教科書や授業のワークシートも利用して授業内容を振り返り、学んだ内容をまとめさせた。生徒は、テスト直前に試験範囲の学習内容を復習することで、学んだ知識を踏まえて論述する準備をすることができ、書く意欲が高まった。

現代社会「学習の記録」

()年()組()番 / 氏名 _____

テーマ1 / 科学技術の発達と生命の問題	
目標(ポイント)	内容(わかったこと)
テーマ2 / バイオエシックス～生命の質について～	
目標(ポイント)	内容(わかったこと)
テーマ3 / 環境倫理～生命への畏敬～	
目標(ポイント)	内容(わかったこと)
テーマ4 / 臓器移植の課題	
目標(ポイント)	内容(わかったこと)

また、テストに論述式の問題を出題する際に、採点の難しさが障壁となる場合が多いと思われる。特に、語句や用語の説明でなく、生徒自身に自由に意見や考えを書かせる場合、採点の煩雑さや困難さが問題となる。また、採点する際に、内容の適切さよりも書いたことに対する意欲を評価しがちになる傾向もある。

そこで、採点基準を予めできるだけ具体的に設定することにより、採点をしやすくし、採点のブレを少なくできるようにした。そして、その採点基準を事前に生徒に知らせることで、生徒自身が論述に求められていることを理解し、それに沿って記述するよう促した。論述問題の配点を10点満点とし、採点基準を以下のように設定した。

①内容の正確さ（5点）

- 問いに対して正しく答えているか。・・・2点
- 言葉や知識を正しく理解して使っているか。・・・1点
- 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。・・・2点

②意見の自分らしさ（3点）

- 自分なりの意見を述べているか。・・・2点
- 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。・・・1点

③文章の読みやすさ（2点）

- 筋道を立てて文章を書いているか。・・・1点
- 誤字や脱字がないか。・・・1点

採点基準を作成するにあたっては、論述問題である以上、記述内容が正しいかどうかという観点最も重要であると考えた。「内容の正確さ」という観点を設定し、それをさらに出題の意図を的確にとらえているか、事象や用語の理解が正確か、根拠が明確か、という3つの小観点到分けて評価することとした。2つ目として、「意見の自分らしさ」という観点を設けた。その中では、自分自身の言葉で表現しているか、という小観点到のほか、自分で新たに調べたことを付け加えているか、という小観点到を設定した。これによって、生徒が自ら何かを調べようとする姿勢をもつよう促したいと考えた。3つ目として、筋道だった矛盾のない文章であるかどうか、また、誤字や脱字がないかどうか、という「文章の読みやすさ」を評価の観点とした。

採点基準について生徒に説明する際には、「内容の正確さ」はもちろん大切だが、「意見の自分らしさ」も重要な評価対象であるという点を強調した。授業で学習した内容に関連して、自分なりに調べ、消化した上で自分の言葉で表現することが重要であり、主体的に学ぶ姿勢をもつようになることを期待した。

以下に、生徒の解答と、採点例をいくつか掲げる。

生徒A

私は、家族の臓器提供を（ 承諾 / 拒否 ）することが望ましいと考える。
その理由は、
臓器提供を待っている人の命を救いたいのと、私の家族もそれを望んでいると思うからです。臓器提供を待っている人達は、毎日辛い治療をしながら、それでも生きたいという強い希望を持っていると思います。以前、家族と一緒に見たテレビ番組で、自分より小さい子が臓器提供を待っているというのがありました。その子は、食べ物を食べることができずにいました。それなのに、わがままもいわず毎日希望を持って生きていました。そのかいあつてか、臓器提供が実現されたのです。今まで食べれなかった物を食べれるようになり、その子も家族もとても幸せそう

でした。それから間もなく、その子は亡くなってしまいました。その子も家族も後悔はしてないと思います。臓器提供の夢がかなって、きっとその子にとっては最高の人生が送れた事と思います。そのテレビを見てから、私は、「臓器提供ってすごいことなんだな。」と思うようになりました。自分、あるいは自分の家族が誰かの命を救うことができることはとても良いことだと思います。命のバトンをいつまでもつなげていきたいです。

①内容の正確さ（4点 / 5点）

- 問いに対して正しく答えているか。 2点 / 2点
- 言葉や知識を正しく理解して使っているか。 1点 / 1点
- 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。 1点 / 2点

②意見の自分らしさ（3点 / 3点）

- 自分なりの意見を述べているか。 2点 / 2点
- 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。 1点 / 1点

③文章の読みやすさ（2点 / 2点）

- 筋道を立てて文章を書いているか。 1点 / 1点
- 誤字や脱字がないか。 1点 / 1点

合計9点 / 10点

生徒B

私は、家族の臓器提供を（ 承諾 / **拒否** ）することが望ましいと考える。

その理由は、

家族の意志が分からないからです。臓器提供によって、誰かが救われるとしたら、自分だったら提供するかも知れません。しかし、自分の家族は提供したくないと思っていたかも知れないので、提供するという意思表示がない以上は、提供すべきでないと思います。それに、自分の家族の体が傷つけられるのは何となくイヤな気がします。特に眼球を提供して義眼を入れるのはイヤです。でももし自分や自分の家族の目が見えなくて、角膜を移植すれば見えるようになるのだとしたら、移植を望むだろうと思います。このように他人のことと自分のことでは考えが違ってしまっているので、自分の意思を家族にもきちんと伝えておくべきだと思います。

①内容の正確さ（5点 / 5点）

- 問いに対して正しく答えているか。 2点 / 2点
- 言葉や知識を正しく理解して使っているか。 1点 / 1点
- 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。 2点 / 2点

②意見の自分らしさ（2点 / 3点）

- 自分なりの意見を述べているか。 2点 / 2点
- 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。 0点 / 1点

③文章の読みやすさ（2点 / 2点）

- 筋道を立てて文章を書いているか。 0点 / 1点
- 誤字や脱字がないか。 1点 / 1点

合計8点 / 10点

生徒C

私は、家族の臓器提供を（ **承諾** / 拒否 ）することが望ましいと考える。

その理由は、

脳死は植物状態とは違って生命維持装置があればずっと生きていけます。しかし、私はそれはかわいそうだと思います。なぜならば、“生きてる”より“生かされる”という意味に近いから

です。脳死と判断されたら、心臓を提供してあげたいと思います。生まれつきで心臓の弱い子などを助けたいと思います。周りの家族の人が反対しても、説明して納得させ、未来の世代に自分の体をつなげていけたらすごいと思います。

これから医療技術が発展すれば、臓器提供があたりまえの時代になっていくと思います。今、45.8%の人が提供を認めています。これがいずれ100%になるよう、人と人とが支えあっていく社会ができればいいと思います。

①内容の正確さ(1点 / 5点)

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 問いに対して正しく答えているか。 | 0点 / 2点 |
| <input type="checkbox"/> 言葉や知識を正しく理解して使っているか。 | 0点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。 | 1点 / 2点 |

②意見の自分らしさ(2点 / 3点)

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 自分なりの意見を述べているか。 | 2点 / 2点 |
| <input type="checkbox"/> 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。 | 0点 / 1点 |

③文章の読みやすさ(1点 / 2点)

- | | |
|---|---------|
| <input type="checkbox"/> 筋道を立てて文章を書いているか。 | 0点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 誤字や脱字がないか。 | 1点 / 1点 |
- 合計4点 / 10点

人間の死のとりえ方や臓器移植など、生徒にとってはあまりなじみのない難しいテーマを扱ったが、多くの生徒は自分なりに理由をあげて「どのような判断が望ましいと考えるか」を論述することができた。中には、生徒Cのようにあやふやな知識から論じているものや、出題の意図を踏まえずに自分の考えを展開しているもの、単なる感想になってしまった解答も見られた。生徒が、正確な知識・理解を土台として自らの意見を主張できるように、また、何を書くべきかをきちんととらえて論じられるように、指導を工夫しなければならないと感じた。

なお、指導する際には、生命科学に限らず科学技術は日々進歩するものであって、現在正しいとされていることが将来変わる可能性もある、ということを指摘する必要がある。また、脳死判定や臓器移植の是非等について、ひとつの価値判断を推奨したり一方的な見方、考え方に偏ったりしないように、教師自身が留意するとともに、生徒にも意識させることが大切である。

実践2 豊かさとは何かを考える

(1) 単元名 現代の経済生活と経済活動

(2) 単元の目標

現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と産業保全について理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の経済社会の諸事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動の在り方について考えようとしている。	現代の経済社会の諸事象から課題を見だし、個人と企業の経済活動における社会的責任等について多面的・多角的に考察するとともに、経済活動の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の経済社会に関する諸資料から、学習に役立つ情報を選択して活用するとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任や経済活動の在り方について考察したり追究した結果を適切に表現している。	現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と産業保全について理解し、その知識を身に付けている。

(4) 指導計画

時	学 習 内 容
1	豊かな社会を求めて～私たちの社会と経済状況～【本時】
2	経済の仕組み～資本主義と経済成長
3	戦後の日本経済の歩み～高度経済成長からバブルの崩壊まで～
4	企業の役割とはたらき
5	株式投資とバブル経済～キャピタルゲインを狙え！～
6	租税と財政政策
7	社会保障制度
8	労働環境を考える ～労働と経営～
9	環境を守るために
10	私たちの食べ物と日本の農業
11	企業と私たち一人ひとりの責任

(5) 本時の目標

国内総生産や国民総所得等についての資料を活用して、経済の発達とはどのようなことか、また、豊かさとは何かを多面的、多角的に考察させ、現代の経済社会の諸事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究する態度を身に付けさせる。

(6)授業展開

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画〔評価方法〕
導入	10分	・自分たちの住む社会について、豊かさ（満足な点）と貧しさ（不満足な点）をワークシートに記入する。	・ブレインストーミングにより、できるだけ多くの意見を挙げさせる。	
展開	30分	・GDPなどの経済指標について理解し、教科書の統計資料を読み取ってワークシートの表を完成させ、日本の一人あたりの国民総所得の推移を考察する。 ・地図帳の統計資料を利用して、世界の国々の人口、産業別人口の割合、GNIなどを調べ、経済成長と産業構造の高度化について理解する。 ・他国と比較して日本は豊かといえるかどうかを考える。	・物価水準の相違に気付かせ、実質的にどれだけ所得が伸びたか、豊かさの中身について考えさせる。 ・先進国と発展途上国とを比較させ、産業別人口の割合の特徴、そしてGNIの相違に気付かせる。その際、GNIなどの数値を単純に比較してよいかどうか、疑問を投げかけて考えさせる。	・資料を適切に活用して豊かさとは何かを多面的・多角的に考察している。 【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 〔ワークシート、テスト〕 ・現代の経済社会の諸事象に対する関心が高まり、それを意欲的に追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】 〔発問、観察〕
まとめ	10分	・豊かな国とはどのような国か、授業を振り返って考え、授業で印象に残ったことを学習の記録ワークシートにまとめる。		

(7)実践の概要

本実践は、経済の単元「現代の経済生活と経済活動」の1時間目として設定した。経済指標や各種統計資料を活用しながら、現在の日本の経済状況を概観すると同時に、「豊かさ」について考えさせることをねらいとした。そして、今後の経済分野の学習に対する生徒の興味・関心を高めることを目指した。

導入で、生徒の今の生活について豊かさを感じる点（満足している点）と貧しさを感じる点（不満足な点）を思い浮かべて記入させた。その後、国内総生産と国民総所得について説明し、教科書や地図帳の統計資料を使用して、「日本の一人あたり国民総所得の推移」の表を完成させた。表から日本経済の発展を数値で実感することができるが、その数値をそのまま単純に受け止めてよいかどうか、生徒に問いかけ考えさせた。さらに、「世界各国の経済状況」の表を完成させ、他国との比較という視点で日本は豊かな社会といえるかどうかを考えさせた。

現代社会ワークシート [テーマ1 / 豊かな社会を求めて～私たちの社会と経済状況～]

()年()組()番 / 氏名 _____

私たちの住む社会の「豊かさ(満足な点)」と「貧しさ(不満足な点)」を書き出してみよう

豊かさ(満足な点)	貧しさ(不満足な点)

私たちは豊かな社会で生活しているだろうか、教科書や地図帳の統計資料から考えてみよう

(1) 「日本の一人あたり国民総所得の推移」を参考に、日本は年々豊かになっていると言えるか？

日本の一人あたり国民総所得			<経済の大きさをはかる「経済指標」>
年代	所得額	差額	
1960			国内総生産 = GDP (G _____ D _____ P _____) 【 】年間に【 】で生産された【 】 の生産額をすべて合計した額。または、【 】 (=新しく付け加えられた値打ち)の合計。 国民総所得 = GNI (GrossN _____ Income) *以前は _____ (GNP)が使われていた。 ★昔と今のGNIを単純に比較してよいのだろうか？
1970			
1980			
1990			
2000			
2005			

(2) 「世界各国の経済状況」と比較して、日本は豊かな社会と言えるか？

国名	人口(万人) 2004年	1人あたりの国民総所得 (ドル)2004年	産業別人口の割合(%)2004年		
			第1次	第2次	第3次
日本					
アメリカ合衆国					
サウジアラビア					
ガーナ					
シエラレオネ			老年人口率(65歳以上) %		

★各国の統計を比較して分かることは？

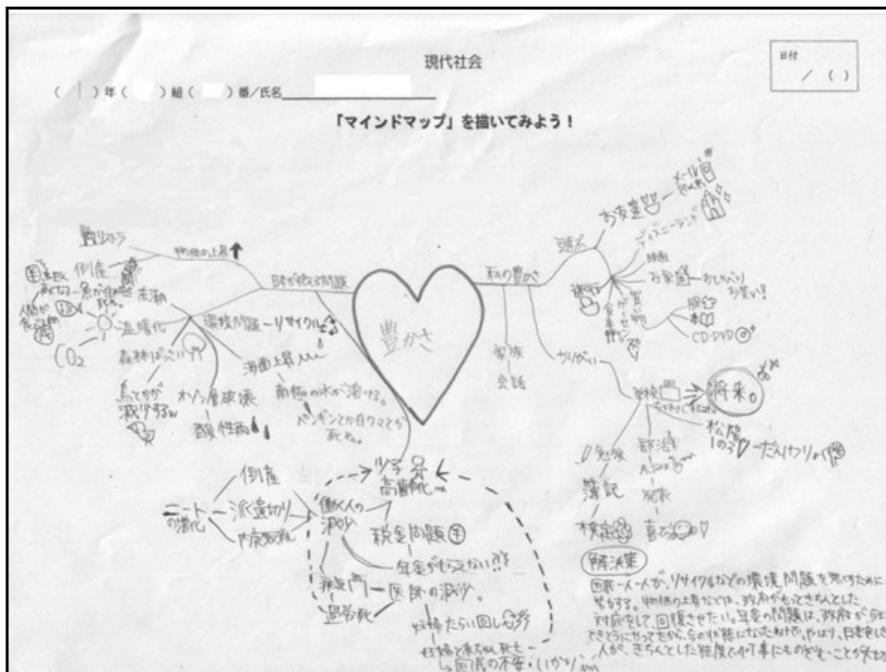
(3) _____の高度化：日本では産業別所得や就業人口の比重が次の から へ移った。

第一次産業 … 【 ・ 】業

第二次産業 … 【 ・ 】業

第三次産業 … 【 ・ 】業

先進国では、 _____へと比重が移行した。



(8) 論述式の問題による評価

本実践では、以下のような論述式の問題を出題した。

あなたにとって「豊かさ」とは何か。
 その豊かさを今の日本で実現しようとすると、どんな問題があるか。
 問題の解決策も提案しなさい。

採点基準は以下のように設定した。この論述式の問題では、観点②の「意見の自分らしさ」の配点を高くし、自分なりの考えや課題の解決策が記述されることを期待した。

- ①内容の正確さ（4点）
 - 問いに対して正しく答えているか。・・・1点
 - 言葉や知識を正しく理解して使っているか。・・・1点
 - 資料を適切に用いるなど根拠を述べているか。・・・2点
- ②意見の自分らしさ（4点）
 - 自分なりの意見を述べているか。・・・3点
 - 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。・・・1点
- ③文章の読みやすさ（2点）
 - 筋道を立てて文章を書いているか。・・・1点
 - 誤字や脱字がないか。・・・1点

以下に、生徒の解答と採点例をいくつか挙げる。

生徒A

私にとっての「豊かさ」とは心に余裕をもてることだと思う。
 現在、日本の国では「各家庭に給付金を支給しよう」という案が出ているが、お金があれば豊かということではない。またこの給付金についても「すべての家庭に支給する」、「高所得には辞退してもらおう」など意見が二転三転している。政府が安定しないことが日本が今抱えている大

きな問題だと思う。

政治家というのは自分の事しか考えない人が多いと思う。だから日本全体が安定しなくなる。人間全員が心に余裕をもつことができれば、政治家達も国民のことを考えられるようになる。それにより国が安定し、少年犯罪、裏金など日本の抱える多くの問題が解決すると思う。

心に余裕を持ち、人の事を考えられる人が本当の「豊か」だと私は思う。

①内容の正確さ (3点 / 4点)

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 問いに対して正しく答えているか。 | 1点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 言葉や知識を正しく理解し使っているか。 | 1点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。 | 1点 / 2点 |

②意見の自分らしさ (4点 / 4点)

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 自分なりの意見を述べているか。 | 3点 / 3点 |
| <input type="checkbox"/> 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。 | 1点 / 1点 |

③文章の読みやすさ (1点 / 2点)

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 筋道を立てて、文章を書いているか。 | 0点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 誤字や脱字がないか。 | 1点 / 1点 |

合計 8点 / 10点

生徒B

私にとっての豊かさとは健康である。

日本の健康指標は5位、「平均寿命」と「人口当たり病院ベッド数」は1位だ。しかし、日本が医師不足に陥っているというのも事実だ。妊婦の受け入れ拒否の問題もあった。医師たちは声を揃えて自らを弁護していた。また、医師免許を持っていない人間が医師として働いていたこともある。そのことから医師が不足しているのは明白だ。

ベッドが足りていようが、病院が受け入れを拒否するのであれば意味がない。平均寿命が長かろうが、病を患ったときに治療を施し、支えてくれる人がいないのであれば意味がない。

私は日本の医師不足が解消されない限り、どんなに食料があろうが、学力が高かろうが、豊かではないと思う。病に、そして受け入れ拒否のたらい回しに怯え暮らす生活のどこが豊かだろうか。病院のベッド数や平均寿命を気にするよりも、まず若い医師の育成に力を注いでほしいと思う。

①内容の正確さ (3点 / 4点)

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 問いに対して正しく答えているか。 | 1点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 言葉や知識を正しく理解し使っているか。 | 1点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。 | 1点 / 2点 |

②意見の自分らしさ (4点 / 4点)

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 自分なりの意見を述べているか。 | 3点 / 3点 |
| <input type="checkbox"/> 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。 | 1点 / 1点 |

③文章の読みやすさ (2点 / 2点)

- | | |
|---|---------|
| <input type="checkbox"/> 筋道を立てて文章を書いているか。 | 1点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 誤字や脱字がないか。 | 1点 / 1点 |

合計 9点 / 10点

生徒C

日本は、主要先進国の中では、豊かさが1位で今とっても豊かな生活をしていると思う。今、1番日本が豊かだと感じる時は、携帯電話を小学生でも持っていることだ。欲しい物がすぐ手に

入って、とても豊かな生活を過ごしている。だが、その豊かさとは反対に大きな問題もおこっている。誰もが携帯を持っていることで、いろいろな問題がある。

たとえば、中傷メールや簡単にどんなサイトにもアクセスできることだ。そのようなサイトにアクセスしてトラブルがおこったと、よくニュースなどで耳にすることがある。それはどのように解決できるだろうか。

問題がおこるから携帯を持たせないようにするのは、違うと思う。携帯は、どこにいるかなど便利な機能も付いている。その問題を解決するためには、1人1人がちゃんと気をつけ親と相談などし、アクセスできるサイトを制限するなどの前向きな解決策が必要だと思う。

①内容の正確さ（2点 / 4点）

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 問いに対して正しく答えているか。 | 0点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 言葉や知識を正しく理解し使っているか。 | 1点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。 | 1点 / 2点 |

②意見の自分らしさ（3点 / 4点）

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 自分なりの意見を述べているか。 | 2点 / 3点 |
| <input type="checkbox"/> 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。 | 1点 / 1点 |

③文章の読みやすさ（2点 / 2点）

- | | |
|--|---------|
| <input type="checkbox"/> 筋道を立てて、文章を書いているか。 | 1点 / 1点 |
| <input type="checkbox"/> 誤字や脱字がないか。 | 1点 / 1点 |
- 合計7点 / 10点

多くの生徒が、自分にとって「豊かさ」とは何か、それを実現しようとするとながら何が問題か、そして問題の解決策、という出題に沿って論述することができた。イメージマップを作成したことにより、様々な事柄の中から自分の考えを整理し、焦点を絞り込むことができたようである。課題解決まで論じることができた生徒も多かった。反面、アイデアが多岐にわたったためか、論点が経済の問題から離れてしまい、生徒Cのように携帯電話の問題を論じたり、環境問題を取り上げたりする生徒もみられた。経済についての学習を踏まえて論述させるためには、「経済的な視点から書きなさい」等の指示が必要であった。

3 まとめ

(1) 成果

授業において、生徒に考えさせたり、意見や感想を書かせたり、発表させたりする活動を繰り返すことにより、文章を書くことに対する抵抗感が薄れただけでなく、自分の意見や考えを表現することに対して前向きな姿勢をもつ生徒が増えた。「次回はどのような論述問題が出されるのか」と質問してくる生徒もでてきた。書くことで自分の考えを明確にすることができ、自分を表現することができることに気付いたのではないだろうか。授業中、生徒に発問したり意見を求めたりした際に、積極的に答える様子もみられるようになり、「現代社会」の学習に対する意欲が高まってきたことが感じられた。

生徒の記述内容についても、当初は感想文や意見文のようなものが多かったが、徐々にではあるが、論旨の一貫した論理的な文章も書けるようになりつつある。

定期テストで論述式の問題を出題して評価することは、生徒の思考力、表現力の育成に効果があった。授業の中で「書く」ことと、テストで「書く」ことでは、生徒の意識に大きな違いがあり、テストに出題することによって、より真剣に取り組む様子が見られた。

論述問題の採点基準を細分化、明確化したことにより、採点方針がぶれにくくなり、教師自身

が採点で悩むことが格段に少なくなった。生徒に対しても、採点基準を事前に周知し、説明したため、以前は多かった採点に対する質問や疑問がほとんど出なくなった。また、生徒が基準に沿って論述することを意識するようになり、論述の形式、内容ともに整ってきている。

さらに、今回の実践を通して、思考法についても多くのことを学んだ。ブレインストーミングを取り入れたことで、ある程度、生徒の思考を広げ、様々な意見やアイデアを出させることができた。そして、授業のまとめとしてイメージマッピングを行ったことは、学んだ知識や自分が考えたことを整理し、自分自身の意見を明らかにすることに役立った。

以上のように、テーマを設定して考察したり、意見を記述する課題追究学習を授業で日常的に取り入れ、論述式の問題を定期テストで問うことで、生徒の思考力、表現力の育成がある程度できたと考える。

(2) 課題

授業で文章を書かせ、定期テストで学習内容に関連した論述式の問題を出題したが、その後の指導を行うことができなかった。テストでの評価をもとに、十分ではなかった部分を考え直し、書き直しをさせるなどの指導ができれば、さらに生徒の書く力を高めることができると考えられる。将来、多くの生徒が就職や進学に際して小論文を書く必要がでてくることも考慮し、より字数が多く内容もしっかりとした小論文が書けるようになることを目標として、指導をしていきたい。

また、今回、生徒の思考を促すため、ブレインストーミングやイメージマップの作成を試みたが、生徒の思考力を高めるには十分とはいえなかった。ブレインストーミングは授業の導入において短時間しか実践できず、教師が中心となって行ったため、生徒の主体的な学習とならず、自由な発想や意見を十分に引き出せたとはいえなかった。イメージマップの作成についても、生徒にとって初めての経験であり、教師の説明も不十分だったためか、マッピングしたことが論述に結びつかない生徒も見られた。

さらに、授業の中で、生徒に意見を発表させ、他の生徒の考えを知ることができるよう心がけたが、生徒の学びあいが十分なされたとはいえなかった。今後、グループ学習の機会を増やして、話し合いをもとに意見をまとめて発表させるなどの活動も取り入れたい。